

(写真：UNHCR/Kaoru Nemoto)

株式会社ユニクロの方々を通じて日本からリサイクル衣料のご寄付がキャンプの難民たちに届けられた旨、前回皆様にご報告させていただきましたが、再び心のこもったご協力を日本の方々からいただくことができました。



バレーボール教室の様子。指導を熱心に聞いていますね！

モントリオール・オリンピックの女子バレーで金メダルを取られた選手の方々を中心に昨年設立されたNPO法人「バレーボール・モントリオール会」の方々が、難民たちにバレーボール指導をするために遠路はるばる日本からネパールのダマクまで来てくださったのです。4月4日から6日までの3日間、難民キャンプのサッカー場にバレーボールコートが12面も設置され、大歓声の中バレーボール教室と大会が開かれました。

白井貴子さん、矢野廣美さん、そして金坂克子さんの3人の金メダリストから直々に指導を受けられるとあって、7つのキャンプから総勢200人近くがバレーボール教室に参加。大会はおよそ30チームが出場するリーグ戦になりました。娯楽が少ないとあって、立場を超えて皆エキサイトし、ネパール政府からも国連や人道援助NGOからもチームが出場。プログラムの運営は、UNHCRの指導の下、各キャンプに設置されている「Youth Friendly Center」の若者たちが担当。審判やラインズマン、会場の警備、水分補給係やFirst Aidも難民のボランティアが引き受けてくれました。オリンピックの金メダリストがスポーツ指導で難民キャンプを訪問することは、類まれなことです。

男子をビシバシと指導する白井さん、女の子チームと一緒に交じって、うまく行ったときには抱き合いながら喜びを分かち合う矢野さんと金坂さん。「日を追って上手になっていきますね。もっと声を掛け合って、チームプレーができるようになるといいですね。」と目を細めていらっしやいました。スポーツには、言葉や国籍、立場の違いを超えて人々を一つにする力があるのだと実感。長期化する難民状況の中で将来の青図を描けず、フラストレーションを募らせている若者たちの目が、とてもキラキラしていました。また、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターを通じて、早稲田大学の学生ボランティアがモントリ

オール会の金メダリストたちのサポート役として参加。年が近いとあって、スポーツ指導を超えて、難民の若者たちと和気藹々と交流していました。

「バレーボールってこんなに面白いとは知らなかった。何だかとてもスカッとする！」コートでは、女の子たちの笑顔が特に光っていました。参加者の半分は女子にすると取り決めたので、普段は引っ込み思案な女の子たちが大勢参加。保守的な社会環境の中で日頃は控えめな態度を取っている女性たちが、打って変わって闘争心を前面に出して、裸足ながらも積極的にプレーしているのは、嬉しい発見でした。女の子たちが男性の目を気にせず、恥ずかしがらないでプレーに専念できるよう、女子用コートと男子用コートを区分。また、ボール、ネット、スポーツ衣料などのスポーツ用品のご寄付に加えて、女性に対する皆さんのきめ細かな配慮から、ヘアブラシや手鏡、髪飾りといったお年頃の女性には大変嬉しいプレゼントがありました。さらに、女子バレー五輪代表選手でいらっしやった三屋裕子さんが社長を務める下着メーカーの株式会社シャルレから、女性の参加者とボランティアに下着のご寄付がありました。

スポーツマッサージ指導や報道関係者を含めると、総勢 16 名が日本から訪問。皆さんには、難民キャンプでの生活状況や難民たちの抱える問題に触れていただく機会を設けさせていただきました。日本にお帰りになってからも、様々な場で難民問題について「語り部」となって伝えていただくことを期待しています。



右から白井貴子さん、矢野廣美さん、金坂克子さん
中央に UNHCR ネパール・ダマク事務所長根本かおる

今回のバレーボール大会には、難民と地元住民との溝を埋め、関係改善に貢献するという効果もありました。大会参加を地元チームにもオープンにしたため、オリンピック金メダリストの指導の下大会に出場できると、地元の人々がエキサイト。男子の部の決勝戦は、ベルダンギ難民キャンプチームと地元選抜チームとの間で戦われ、2-1 の接戦で地元チームの優勝となりました。ネパールバレーボール協会の代表の方が、モンリオール五輪日本代表チームのビデオを観て練習していたという経緯もあって大いに賛同してくださり、今後 UNHCR とネパールバレーボール協会との間で難民と地元住民との合同練習を開催することで早速合意することができました。2 月末に難民と地元の若者たちとの間で死傷者を出す衝突が起こり、両者の間の関係がギクシャクしがちただけに、スポーツを通じて立場の違う人々が仲良くなれるという効果を大変嬉しく思っています。

ホームページでのご報告はこちら <http://montreal.sports.cocan.jp/damak.html>

直木賞受賞作「風に舞いあがるビニールシート」で UNHCR や難民支援の現場について執筆された森絵都さんが、ダマクの難民キャンプを訪問されたと前回ご報告させていただきましたが、森さんの難民キャンプ訪問記が、『別冊文藝春秋』5月号（4月7日発売）に掲載されています。機会がございましたら、どうぞ一読ください。

2007年4月8日

UNHCR ネパール・ダマク事務所長
根本 かおる